

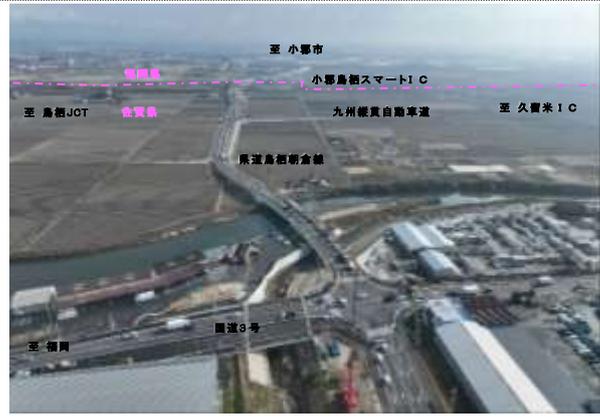
令和6年度全建賞 推薦調書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	おごおりとすみなみすまーといんたーちえんじあくせすどうろどうろせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	小郡鳥栖南スマートインターチェンジアクセス道路整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成30年8月10日～令和6年3月17日
3. 事業費(工事費)	12,200百万円(福岡県:6,100百万円、佐賀県:6,100百万円)
4. キーワード	県境道路、物流効率化、渋滞緩和、高速道路上及び鉄道上での橋梁架設
5. 事業概要	<p>本事業は、九州自動車道小郡鳥栖南スマートインターチェンジ(IC)へのアクセス道路を、福岡県と佐賀県で連携して整備したもので、6つの橋梁を架ける1.6kmの新設道路にも関わらず、約5年(平成30年度～令和5年度)と短期間で完成した。スマートICの利用台数は4,894台/日(令和6年9月)と、計画交通量(4,200台/日)を上回っており、今後、物流の効率化や開発・企業誘致の促進による雇用の創出が期待される。加えて、高速道路利用者と現道利用者の分散による交通渋滞の緩和や、大規模災害時の救援・救護活動や物資輸送のルート確保などの効果も期待される。</p>

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 既往技術の創意工夫、活用	(d) イベントの開催
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 当該事業による本来目的の効果 (b) コストの縮減 (k) 施工の合理化・効率化	(i) その他 児童交流、公共事業イメージアップ、 魅力発信

7. 特にアピールしたい点
<p>本事業において、コスト縮減と資源の有効活用をはじめ、令和5年度末までの5年間で完成させるための工程管理、鉄道及び高速道路を跨ぐ橋梁の効率的な架設方法の検討、地元調整などが課題であった。また、2県に跨がる大規模事業についての理解を得るため、公共事業のイメージアップや土木の魅力発信に関する取組を行う必要があった。これらの課題に対し、ハード面では、①土砂ストックヤードを設け、平成29年7月九州北部豪雨による災害発生土約50万m³を有効活用しコスト縮減、②高速道路上への橋梁架設において、多軸式特殊台車による一括架設工法により、1日限り夜間9時間の通行止めによる施工、③夜間2時間しか施工時間がない鉄道上への橋梁架設において、大型クレーンによる架設工法での施工時間の短縮などを、④関係者間で情報共有や工程調整を密に行いながら取り組んだ。また、ソフト面では、⑤開通前のアクセス道路上で、地元の小中学生などを招いたイベントや開通式を開催し、地域の交流を深め、公共事業のイメージアップを図り、土木の魅力を発信するなどに取り組んだ。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

本事業を円滑に進めるための具体的な取組内容

- ① 工事箇所の近隣に土砂ストックヤードを設置し、平成 29 年九州北部豪雨による災害発生土(約 50 万 m^3)を受け入れて有効活用し、コストを縮減した。土砂の受入基準(コーン指数 800 kN/m^2 以下では要改良、最大粒径 300mm 以下等)を事前に示し、搬出側、受入側それぞれで品質管理を行い、不良土や転石の混入がない良質な土砂を受け入れることができた。なお、ストックヤードについては、多数のダンプトラックが往来するため、粉塵対策や作業時間及び工事用車両の通行箇所について地元と協議を重ね、了解が得られたため設置が可能となった。
- ② アクセス道路のうち、鳥栖基里大橋(鋼径間連続細幅箱桁橋、橋長 $L=136.0\text{m}$)は、1日6万台を超える交通量がある6車線の九州自動車道と秋光川を跨ぐ橋梁である。そのうち高速道路を跨ぐ区間(延長 72.6m)の架設では、佐賀県初となる多軸式特殊台車による一括架設工法により、1日限り、夜間9時間(PM21:00~AM6:00)の通行止めによる施工により、高速道路への影響を最小限に抑えた。
- ③ アクセス道路のうち、福童跨線橋(PC単純ポストテンション方式スラブ桁橋、橋長 $L=26.5\text{m}$)は、西鉄天神大牟田線を跨ぐ橋梁であるため、施工時間の制約(施工可能:2日に1回、AM1:30~AM3:30の2時間)があったが、施工前に西日本鉄道(株)と協議を重ね、制約時間外に施工可能な内容を見直すこと、また、オールテレーンクレーン(450t)によるクレーン架設とすることで、制約時間内で、効率良く、精度良く、安全に架設した。
- ④ スマートIC及びアクセス道路整備事業の円滑な実施のため、関係者で構成した安全連絡協議会を福岡県側(福岡県、小郡市、NEXCO 西日本、施工業者)、佐賀県側(佐賀県、施工業者)でそれぞれ、工事着手以降、毎月1回以上(福岡県:合計 54回、佐賀県:合計 29回)開催し、設計、用地、工事の進捗状況の共有や工事工程の調整などを関係者一体となって取り組んだ。
- ⑤ 工事箇所は、田園地域であり、施工ヤードとして借地した敷地について、基盤土からの復旧が必要であり、地権者及び耕作者との調整を綿密に行い次期の作付けができるよう、工程調整を行い、復旧を完了した。
- ⑥ アクセス道路の開通に先立ち、地元の小中学生などを招いてイベントを実施した。佐賀県では開通前の新しい橋の橋面で、銘板のお披露目、お絵描きイベント、福岡県では記念植樹、記念パネル作成、建設機材の乗車体験などを行い、地域の交流を深め、公共事業のイメージアップを図り、土木の魅力を発信した。



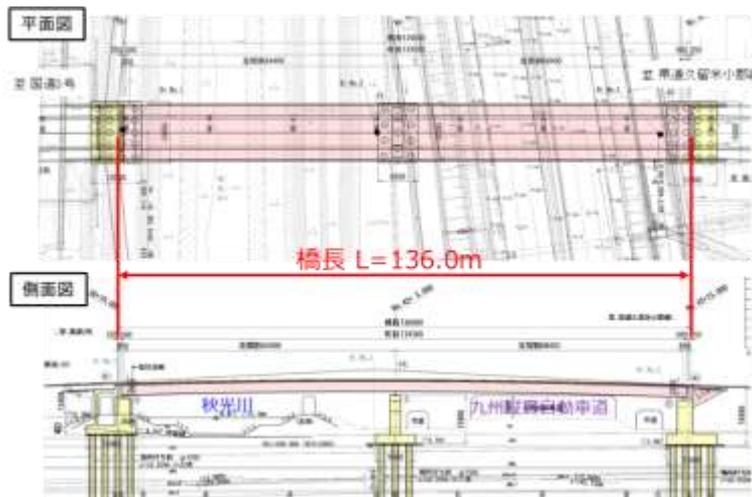
※国土地理院の地理院地図に加筆したものである。

①土砂ストックヤード

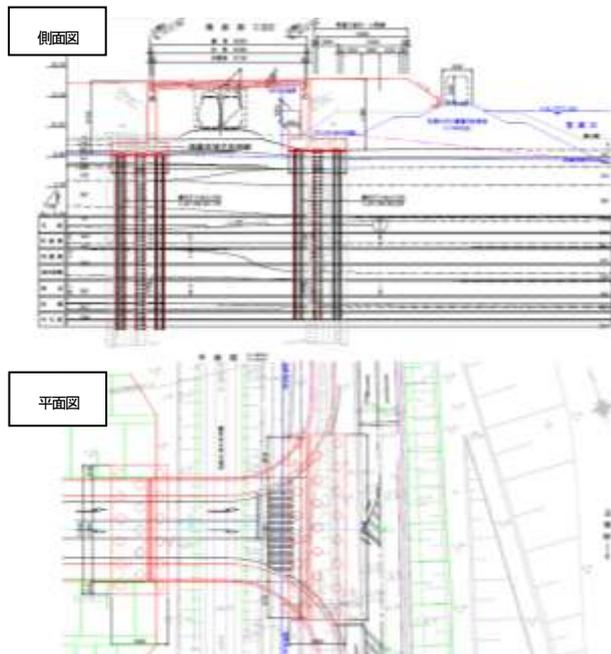


9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

②鳥栖基里大橋(佐賀県)



③福童跨線橋(福岡県)



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法等)〕

⑤イベントの開催

開通記念行事(福岡県、佐賀県)



記念パネル作成(福岡県)



お絵描きイベント(佐賀県)



記念植樹(福岡県)



橋銘板お披露目イベント(佐賀県)